

令和4年度 市長と語るまちづくり懇談会（菊川地区）会議録

日 時：令和4年8月10日（水）午後6時30分から午後8時5分まで

場 所：菊川市民センター

テーマ：「地域で語るまちづくり」

出席者：周南市長

住みよい菊川をつくる会、その他菊川地区内の団体の構成員

菊川市民センター（センター長 ほか）

シティネットワーク推進部（部長、市民の声を聞く課長） ほか

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 菊川地区の活動等について紹介
- (3) 懇談
- (4) 閉会

2 菊川地区の行事や活動などについて

○住みよい菊川をつくる会は、下上、四熊、小畑、加見の4地区の連合自治会、地区の社会福祉協議会、老人クラブなどの団体、地域住民で構成されている。目的別に健康体育部会、文化部会、福祉部会、生活環境部会、夢プラン部会の5つの部会があり、それぞれ活動等を行っている。これまでに行った主な活動等は次のとおりである。

- ・ハイキング大会、バザー、ふるさとウォークを開催
- ・国際交流と食文化の観点で、留学生等と地域住民が母国の料理、日本食、地域の味を一緒に食べるなどの交流
- ・菊川まつりへの協力
- ・地域を盛り上げるために地域の住民や団体を対象にふれあい懇話会を実施
- ・県道以外の中野、四熊、川曲のバス路線に代わる移動手段について市とともに検討
- ・ゴミ仕分けの大切さを学ぶため、地域のクリーンリーダーを対象にリサイクルプラザの分別作業の現場視察

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で、活動は規模の縮小や中止を余儀なくされている。代替策を検討しながら活動を行っているが、コロナ禍における活動のあり方が今後の課題である。

○夢プランは、地域の住民や団体の意見を集計し策定したものである。夢プランの最大目標は、10年後、様々な人たちのネットワークができ、そのネットワークが「きくがわ」の「わ」でつながっているという地域づくりである。0～10代向けプラン、20～40代向けプラン、50代以上向けプラン、全世代向けプランの4つからなる。

- ・0～10代向けプランの「わ」は「我」である。菊川の未来を作る子たちが自発的に行動できる子になるよう、子どもの学びを手助けして子どもに活躍の場を設ける目的で活動している。去年は子育て世代と子育てを卒業した20～40代の世代が親子キャンドル教室を共同開催した。

- ・20～40代向けプランの「わ」は「輪」である。情報化社会の中、子育てを中心に地域の皆がつながりあうという意味である。この世代に対しては比較的に利用することが多いSNSにより情報発信を図っていく。地域の自然資源を活用して親子が楽しく遊べる環境を作りたいと思っている。また、引っ越して来た若い世代と地域住民が子育てを通してつながれるよう考えていきたい。コロナ禍で成人式を挙げられなかった人のため、去年から20歳の集いを企画した。今年は昨年度20歳になった方と地域の住民が交流しながら、一緒に手作りの花火大会も開催することにしている。菊川に住み続けたい、年を経ても帰ってきたいという地域愛を育む取組をしている。
- ・50代以上向けプランの「わ」は「和」である。高齢化が進む中、買い物に困らない「和」、困りごとのない「和」、健康で元気な「和」、この3つについて取り組んでいる。オブザーバーとして市の地域福祉課や健康づくり推進課、社会福祉協議会からも参加してもらっている。菊川の役立つ情報をまとめて発信し、地域の組織など横のつながりを広げながら進めていこうと思っている。
- ・全世代向けプランの「わ」は「環」である。お互いを支えあう「環」、全世代が関わる「環」、自然の豊かさを守る「環」、ということで全世代が関わっている。地域を花いっぱいにするため花の種の配布をしている。菊川はどこを通っても一年中花があると、他地域や県内の人に知ってもらえるよう取り組んでいる。SDGsを念頭に小中学生も一緒に取り組めるよう、ジュニアリーダーズクラブの活動として取り組みたい。これからの全世代が結びつて、これからの菊川を盛り立てていこうと思っている。

3 頂いた主な御意見

- 市の菊川地域に関係する予算は少ないと感じる。新南陽には学校のグラウンドに夜間照明器具があるが徳山には少ない。熱中症予防のため、日中働く者のため、夜に運動ができるよう間上の総合グラウンドに夜間照明を整備してほしい。
- 国の行動制限が見直され、今年は徳山や新南陽の夏まつりも開催された。しかし、地域ではコロナの感染が心配で開催に至っていないのでどうにかしていかないといけないと思っている。
- 中学校に渡る橋が狭いので広くしてほしい。交通量が多く、中学生が登下校をするのに危険である。また、中学校が災害時に避難場所になったとしても、大きい車が入れない状態であるので、県、市が地域と一緒に取り組んでほしい。
- 四熊は中山間部で、少子高齢化で過疎化が進んでいる。農地の管理は高齢者にとっては困難であり荒廃していく状況である。農地を守らなければならないのは分かるが、農地を転用し太陽光発電の設備を誘致することを考えている者もいるので行政も考慮してほしい。また、ゴルフ場に行く人が事故なく通れるように市道の補修、整備に取り組んでほしい。
- 小畑は耕作放棄地が多くイノシシなどの被害が出ている。稲作を続けるため、原材料支給を受けようとしても、2戸以上でないと支給が受けられないので稲作をあきらめる者もいることを分かってほしい。コロナ禍で皆が顔を合わせる機会が減っているので、ふれあいの集いを企画している。小畑の世帯数は少なくなっているが、5～10キロ圏内に小畑を出て住んでいる者が多いので、交流を増やしていきたい。
- 避難場所である菊川小学校、中学校まで川沿いを歩くことになるが、増水した状況下で安

全なのだろうか。安全な経路で行ける避難場所が必要ではないか。

- 橋の側に福祉施設があるが川が氾濫したときにどこに避難すればいいのかと話が出たことがある。ハザードマップは出されているが、現実的なチェックをして訓練をする必要がある。
- 若い世代は携帯電話があるが、高齢者の中にはテレビかラジオしか情報を得る手段がない者もいる。防災ラジオの有効活用を図るべきである。市民センターは地域の拠り所であるので本庁と出先機関の連絡を密にしてほしい。災害が起こりそうな場合は、誰が来て、避難所が開設され、どこに避難するか、避難所に何が準備されているかなどの情報が欲しい。

4 市長の主なコメント

- 地域の行事、活動は多くの皆様の協力により開催されていることを喜ばしく感謝している。新しい生活様式の中での地域の行事は、地域の皆様がリーダーとなって、かたちを変えるなど検討していただきたい。他の地域では、コロナ禍で若い世代がかたちを変えて夏まつりを開催したと聞いている。福祉の面でも、民生委員など地域の皆様の活躍に感謝している。生活交通は、市で地域の皆様と一緒に進めていきたい。クリーンリーダーに分別の必要性などを感じていただき、地域できめ細かく指導してくださっていると感じた。
- 夢プランは各プランにそれぞれの「わ」があって素晴らしい。各プランはターゲットも明確になっていて他の地域にない取組である。地域全体を巻き込んだ夢プランが着実に進んでいる。いろんなことにチャレンジしてくださって感謝している。
- 菊川は、人口が増えている地域であり、道路、水、避難所など、様々な問題が出てくるので必要に応じて相談してほしい。夜間照明は必要性について検討する。通学路になっている市道は、今年から5年間でしっかり点検し修繕などを行っていく。子どもの人数が増えている地域でもある。子どもたちを守るために、皆様の声を市に伝えてほしい。優先順位もあるが、しっかりと検討させていただきたいと思う。
- 農地を農地として活用するのが困難であれば、いろいろと考えていかなければいけない。太陽光発電は行政でも問題と認識している。
- 市道が傷んでいるのであれば、支所等に早く伝えてほしい。安全に生活するための要望は受け付け、なるべく寄り添った対応をしたいと考えている。
- 大雨が降った際は避難所である学校も川沿いにあり山のほうは土砂崩れの心配もある。まずは、ハザードマップを確認し自分の家がどういう状況にあるかを知ったうえで、家族間で自身と近所の高齢者の避難について話し合ってもらいたい。
- 災害時の対応については皆様の意見を頂いて、改善が図れる点については改善を図ってきたい。以前、各地域の民生委員児童委員協議会でも、他人に借りることができない物などを事前に準備し、早めに避難所に避難してほしいとお伝えした。自主避難の場合は、食事を提供できないので御自身で準備していただきたい。避難するときに必要な物を、菊川地域に示したいと思う。皆様にも、早めの避難を考えていただきたい。
- 今年の7月からテレビのデータ放送を活用し市政に関する情報を提供している。災害時は、関連情報を見ることができるので日頃から見たい。個人の命を守る判断ができるかもしれない。